

# 平成 28 年度 全国学力・学習状況調査



「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」が本年 4 月に市内小・中学校 17 校（調査対象：小学校 6 年生、中学校 3 年生）で行われました。市教育委員会では、今後の教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と学力向上推進委員会を組織し、結果を分析しましたので、その概要を報告します。

図 学校教育課教育指導室（TEL 71・2461 FAX 71・2338）

## 1 平均正答率の比較の概要

「正答率」は、全調査者数のうちの正答者数の割合（百分率）で表し、「平均正答率」は正答率の平均として表します。市と全国や県の平均正答率を比較すると表 1 のようになります。

■市と全国、県の平均正答率に対する比較（表 1）

	内容	県との比較		国との比較	
		市	県	市	県
小学校	国語 A	○	○	☆	☆
	国語 B	○	○	☆	☆
	算数 A	▽▽	▽▽	▽▽	▽▽
	算数 B	▽	▽	▽	▽
中学校	国語 A	☆	☆	☆☆	☆☆
	国語 B	☆☆	☆☆	☆☆	☆☆
	数学 A	☆☆	☆☆	☆	☆
	数学 B	☆☆	☆☆	☆☆	☆☆

記号	意味（平均正答率の差）
☆☆☆	大きく上回っている（4.0以上）
☆☆	上回っている（2.0～3.9）
☆	少し上回っている（1.0～1.9）
○	ほぼ同じ（±0.1～±0.9）
▽	少し下回っている（-1.0～-1.9）
▽▽	下回っている（-2.0～-3.9）
▽▽▽	大きく下回っている（-4.0以下）

例えば、全国の平均正答率が 80.0、安曇野市の平均正答率が 84.0 だった場合、平均正答率差が 4.0 以上となり、記号は「☆☆☆」、意味は「大きく上回っている」と表現します。

### 【小学校の傾向と課題】

#### ①国語

言語についての知識・理解や技能については、おおむね身に付いていると思われます。書く問題では正答率が低い結果となっているので、今後は、文章の内容、図表やグラフなどから読み取った事柄を、質問の「条件」に合わせて書けるように指導していくことが必要であると思われます。

#### ②算数

今回、全ての領域において全国、県の平均を下回りました。特に、記述式の問題は無解答率が他の問題よりも非常に高く、理由や説明を書くことに課題がみられました。算数への興味関心や数学的な思考・表現力を高める日常の指導が一層必要であると思われます。

### 【中学校の傾向と課題】

#### ①国語

言語についての知識・理解・技能に関する問題の平均正答率は国の正答率を上回っており、家庭学習を含めた言語に関する学習の成果が現れていると思われます。さらに、さまざまな言葉を身に付けるため、多くの文章に触れる機会を設けることが必要だと思われます。

#### ②数学

基本的な計算技能はおおむね身に付いていると思われます。中でも、数学的に表現したり説明したりする問題では、無解答率が県や全国よりは低いものの他の問題より高い結果になりました。数学的な思考・表現力を高める指導がさらに必要であると思われます。

## 2 生活環境や学習状況

市学力向上推進委員会では学力調査結果と学習状況調査結果の関連から特にその推移を注目している設問があります。下記のグラフ 1～5 はその一例です。縦軸の数値は、「そう思う」と答えた児童・生徒

の割合を表しています。「そう思う」と答えた児童・生徒の方が、正答率が高い傾向があります。

考察すると設問ア・イ・ウについては、中学校の伸びが著しく、小学校の数値と同じくらいかそれ以上になっていることがわかります。学力調査結果と重ね合わせると「目標をはっきり持つこと」、「友達とかかわり合って学ぶこと」、「学んだことを振り返り、その価値を意識づけること」の大切さが改めてはっきりしたといえそうです。これらを授業の基本にすることや解答をあきらめない粘り強さを身に付けること、家庭学習についてはまだ改善の余地がありそうです。学校と家庭との連携も重要です。

## 3 調査の今後の活用

市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

### ■教育委員会は

- ①「学力・体力向上 4 カ年計画」の各校への定着を進め、指導主事の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- ②基本的な生活習慣や家庭学習の一層の定着を図るために、市校長会・市教育会・市 P T A 連合会と協働で作成した「家庭学習のすすめ」の理解と活用を進めていきます。

### ■学校は

- ①基本的な学校での学習や生活の習慣を形成するとともに家庭学習の定着のために、市教育委員会や家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また、さまざまな機会を通して家庭に協力を呼び掛けたり、支援をしたりしていきます。
- ②児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行います。



## 比較的正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子

学力調査結果と学習状況調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目において「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率が比較的高い傾向がみられました。

### ■小学生に見られる傾向

- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- ・家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている。
- ・家の手伝いをしている。
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

### ■中学生に見られる傾向

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- ・家で学校の宿題をしている。
- ・読書は好きだ。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
- ・授業で、生徒の間で話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。

※調査結果の詳細は、市ホームページ、または市教育委員会（3階7番窓口）でご覧いただけます。

### 【調査の概要】

実施日 平成 28 年 4 月 19 日（火）  
実施学年 小学校 6 年生（10 校、856 人）、中学校 3 年生（7 校、890 人）  
※私立小・中学校は調査対象外。

### 【調査の内容】

#### ①教科に関する調査

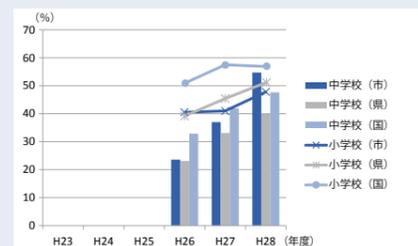
国語（A・B）、算数・数学（A・B）  
※区分 A は、主に「知識」に関する問題、区分 B は、主に「活用」に関する問題

#### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

## ■生活環境と学習状況の関連性

グラフ 1

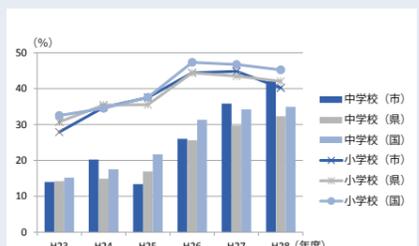
設問ア 授業のはじめに目標（めあて）をねらいが示されていたと思う



※ H 23～25 年度は設問項目なし

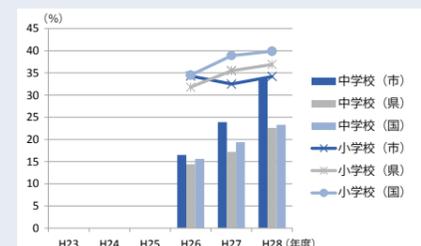
グラフ 2

設問イ 授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う



グラフ 3

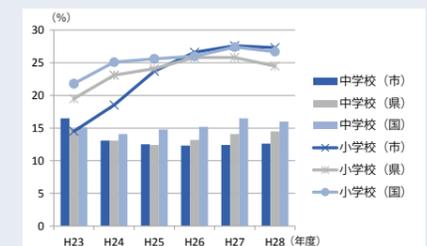
設問ウ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う



※ H 23～25 年度は設問項目なし

グラフ 4

設問エ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている



グラフ 5

設問オ 家で、学校の授業の予習をしている

